

フランスラグビー ワールドカップ

函館市医師会
共愛会病院

たていし もゆる
立石 晋

ラグビーというスポーツはプレーしても観戦しても大変面白いスポーツで、小生は高校時代に出合い大学卒業までプレーしていました。卒業後もOB戦に参加していましたが寄る年波と普段からの怠惰な生活のため今では観戦でのみ楽しんでいます。

タックルマン石塚選手、一歩前へ洞口選手、レッド・デビルのJPRウィリアムズ選手、日本人より浪花節的なリーチ・マイケル選手等々個性的な選手が多くいてそれぞれの選手のコメントも聞いていて楽しいものです。

2015年のラグビーワールドカップでの「ブライトンの奇跡」でヘスケス選手が南アフリカから逆転トライを決めた瞬間の歓喜は忘れられません。YouTubeで仕事の合間にも何度も見直していました。スタンドの映像で観客の中には日の丸を羽織り涙しているラグビーファンを見て小生も目を潤ませていました。

我ら「ブレイブ・ブロッサムズ」もメンバーを入れ替えながら着実に実をつけてくれているようで、2019年ラグビーワールドカップ日本開催大会ではベスト8に進出し、先日行われたフランス代表とのテストマッチ第2戦でもあわや逆転かと期待させるところまで相手を追い詰めました。残念ながらフランス代表の世界ランキング3位は伊達ではなく対フランス戦初勝利はお預けでした。

来年はフランス開催のラグビーワールドカップです。ぜひ、ロシアとウクライナの戦いも、世界的なコロナ感染症やサル痘、円安も落ち着き現地でビール片手に大声を出し好きな選手、好きなチームをただただ応援したいものです。

さーて、それまで頑張って日々の業務をこなしていこうか。

古稀を過ぎて

上川北部医師会
名寄三愛病院

やまぎし まこと
山岸 眞理

私は現在、道北の慢性期病床を持つ病院で、臨床と経営に携わっている。今年1月で満70歳となり古稀を過ぎたところである。

これまで私は、団塊の世代から遅れること数年で生まれ、日本の高度経済成長時代に学生時代を過ごして医師となり、バブル期に合わせて成長し羽ばたくことができた。時代は昭和から平成、令和と進み、私の医師としての成長も年齢とともに鈍化していった。そこで私は、医師以外の世界を広げるように努めてきた。いろいろな業種の人と接し、お互いに刺激しあうことで、自分には無いところを取り入れていく楽しさを知った。

この十年余りで、私の周りの医師が3名亡くなった。いずれも私と年齢がそれほど変わらなく、現役で診療にあたり、医師会活動にも活躍されていた仲間である。改めてお悔やみ申し上げる。一度きりの、限りある人生である。失敗もあれば上手くいくこともある。いろいろなことを経験し、自分の人生を豊かにし、そして今よりは少しマシな人間になろうと思った。

医師免許証に有効期限は無く、医師に定年は無いといわれるが、古稀を過ぎて身の振り方を考える時期が来た。これまでも多くの先輩医師達が悩み、歩んできた道であろう。『論語』の孔子の言葉に「七十にして心の欲するところに従えども矩を踰えず」とある。私にとって、70歳になってもまだ迷うところの多いこの頃であり、なんと孔子40歳の『不惑』の域にも達していない。

ところで自分にとって座右の銘はなにか。座右の銘とは、常に心に留めて人生の指針や、戒め・励ましの言葉とすることだそう。ある本を読んでいて良い言葉を見つけた。

「随所に主となれば、立つところ皆真なり」

臨済宗の祖、義玄^{ぎげん}禅師の言葉である。どんな時でも、自分が主人公となって行こうならば、すなわち本当の自分の気持ちを失わずに向かっていけば、世の中の流れに翻弄されずに生きていけると解釈される。これを座右の銘とし、これまでの自分が培ってきた知識や経験を基に判断し、主体的に考え難局を乗り切っていこう。そしてもし認知症の兆しや身体の運動器が不調となれば潔く引退しようと思う。米国防軍元帥、連合軍最高司令官だったダグラス・マッカーサーが、米国上下両院合同会議での退任演説で有名な言葉を残して現役を退いたという。

「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」